T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	デンマークの学校建築におけるコモンコアの空間・機能構成と利活用
Title(English)	Spatial, Functional Composition and Utilization of Common Cores in Danish School Architecture
著者(和文)	立花美緒
Author(English)	Mio Tachibana
出典(和文)	学位:博士（工学）, 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:乙第4198号, 授与年月日:2024年3月31日, 学位の種別:論文博士, 審査員:安田 幸一,奥山 信一,塚本 由晴,斎尾 直子,村田 涼
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:乙第4198号, Conferred date:2024/3/31, Degree Type:Thesis doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

別　　紙　１（論文博士）

論文審査の要旨及び審査員　　（2000字程度）

報告番号	乙 第　　号	学位申請者	立花　美緒	
論文審査員	氏　　名	職　　名	氏　　名	職　　名
	主査　安田　幸一	教授	村田　涼	准教授
	奥山　信一	教授		
	塚本　由晴	教授		
	斎尾　直子	教授		

本論文は「デンマークの学校建築におけるコモンコアの空間・機能構成と利活用」と題し、以下の６章から構成されている。

第１章「序論」では、研究の背景、目的と意義、研究の資料と方法、従来の研究との関係、論文の構成と概要について述べている。生涯に渡って社会生活を送る力を育む教育を支える学習環境空間の1つとして、児童生徒の活動やコミュニケーションの場となる屋内広場のような共用空間であるコモンコアが、実際に積極的な市民性を育む場として提案されていることに着目し、1930年代から継続的にコモンコアを有するデンマークの小中学校及び高等学校を研究対象とし、デンマークとその周辺国、日本におけるコモンコアの変遷も概観しながら、主に面積的及びプログラム的な問題に着眼した空間構成と機能構成、利活用を分析することによってコモンコアの計画的な意義を明らかにするという本論文の目的を述べている。

第２章「小中学校におけるコモンコアの構成と利活用」では、小中学校のコモンコアについて、空間と機能の構成と教員からみた利活用について検討している。その結果、規模が小さい校舎は室とコモンコアが直接接続している一方で規模が大きくなるとクラスターが設けられていることや、コモンコアは兼用や隣接している機能やコーナーによって場の性格付けがなされており、特に図書機能や講堂機能と関連づけられていること、機能の兼用によって床面積は過大になることが防がれているといった空間と機能の構成の特徴と、さらにコモンコアは児童生徒が自律的な学びや活動、社会的な場の使い方等を段階的に習得していく成長の場であることや、見通しが良い環境について、管理だけでなく、児童生徒が居合わせ影響し合うという教育的観点において教員から肯定的に捉えられているといった利活用の特徴を明らかにしている。

第３章「高等学校におけるコモンコアの構成と利活用」では、普通科高等学校のコモンコアについて、空間と機能の構成について検討し、教員からみた利用状況と、滞留活動、領域、物的要素の関係から利活用について考察している。その結果、一定の規模を有する事例でも校舎のフットプリントを小さくして断面方向に積み、室とコモンコアを直接接続させて面積効率を高めている事例が存在することや、機能としては講堂機能や食堂機能と特に関連づけられていること、コモンコアは生徒や教員の交流や、生徒が企画、運営するイベント等の主体的な活動を支えるフレキシブルな場として教員から重視されていること、授業のグループワークや自習について、主空間から外れた比較的小さい囲われた領域を生徒が選択しているといった構成と利活用の特徴を明らかにしている。

第４章「小中学校と高等学校のコモンコアにおける共通性と差異」では、第２章と第３章で得られた知見をもとに、小中学校と高等学校の空間構成と機能構成、教員から見たコモンコアの利活用について比較検討している。小中学校、高等学校ともに、生徒1人あたりの校舎面積は日本の校舎と比較しても妥当な範囲にあることや、コモンコアを内包する学校と地域施設は、双方向の柔軟な利用がなされているといった共通性と、小中学校は図書と講堂を中心とした機能が重ね合わされた学習と学校が主導するプログラムのための場としての性格をもち、自律的な学びや活動、社会的な場の使い方等を、段階的に習得していくための成長の場である一方で、高等学校では主に講堂と食堂の機能が重ね合わされ、生徒の主体的な活動を支える実践の場としての性質を有しているといった差異を明らかにしている。

第５章「コモンコアと連携する授業活動とセッティングのシステム」では、前章までに取り上げたコモンコアの利活用のうち、コモンコアと連携している授業活動とその使用場所の関係を検討し、コモンコアの実態とその役割について検証している。空間の大きさの種類の豊富さや児童生徒が学ぶオープンスペースが多くあることが教員の施設に対する満足感につながっていることや、グループワークや小プロジェクトで利用されていることから、コモンコアが主体的、協働的な学びを支える一助となっていることを明らかにしている。

第６章「結論」では、前章までに得られた結果をまとめ、本研究の成果を総括している。

以上を要するに、本論文は、生涯に渡り社会生活を送る力を育む教育を支えるための学習環境空間として、デンマークの学校の内部広場コモンコアを検討し、その空間・機能構成と利活用の特徴を明らかにしたものである。この結果は、児童生徒が社会生活を送るための準備を支える空間の計画的意義を提示するものであり、今後の日本の学校建築計画における展開にも新たな知見を与えるものと考えられる。したがって、本論文の成果は、建築学および工学に貢献するところが大きく、博士（工学）の学位論文として、十分に価値のあるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ（T2R2）にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。